

はるかな尾瀬

—目次—

- 02 リレーエッセイ「尾瀬ヶ原のみなもと（猫又川源流部の調査）」
群馬県尾瀬保護専門委員 片野光一
- 05 連載コラム 「資源として活かすいきものの命」
おぜしかプロジェクト 小山抄子
- 07 現地情報
原をわたる風だより ～番外編～ 第1回冬期調査
- 07 尾瀬ボランティア情報
- 08 TOPICS
- 10 尾瀬保護財団からのお知らせ



2017.3 vol.33
(公財)尾瀬保護財団



「霧の中に浮かぶ」（第21回NHK「わたしの尾瀬」フォトコンテスト入選作品） 撮影：宮林博子さん
撮影日：平成27年7月13日

リレーエッセイ

尾瀬ヶ原のみなもと

(猫又川源流部の調査)

群馬県尾瀬保護専門委員

片野 光一

尾瀬の植物相や植生は、尾瀬ヶ原総合学術調査研究(昭和27年)や尾瀬ヶ原の植生(昭和45年)などで報告されていますが、尾瀬地域の全てについて調査されているわけではありません。これは、登山道から外れると藪が深く立ち入りの難しい地域が多いためです。

私の所属する群馬県尾瀬保護専門委員会の植物分野担当者は、平成3年から保護の基礎としての植物的自然の把握を主題に、尾瀬全域を対象とした植生と植物相の調査・研究を行っています。そのなかで最も調査が難しいと思われたのが、尾瀬ヶ原の北西に位置する東西約4km南北約3kmの猫又川源流部でした。沢沿いや尾根の緩斜面などに大小の湿原が点在するこの地域は、尾瀬ヶ原のみなもとにあたり、保護のため立ち入り禁止区域に指定されています。

群馬県ではこの地域の自然環境調査として、昭和53年に外田代地域、昭和54年の奥利根地域学術調査の際に利根川支流の水長沢側からススケ峰の調査を実施し、私もそれらの調査に参加しましたが、山小屋や幕営地からの日帰りに加えアプローチが長いため、十分な調査時間を取



▲ ススケ峰湿原南端 (昭和54年)



▲ 外田代 (昭和53年)

れないものでした。外田代調査は、当時の群馬県尾瀬保護管理センターの兄い達に案内を依頼し、往路は猫又川左岸のピークの西側を巻き、帰路は猫又川を下るルートをとりましたが、調査にかけられる時間は僅かでした。さらに、兄い二人で外田代北側の瞳ヶ原の調査に入りましたが、尾瀬地域に詳しい兄い達でさえ無雪期は外田代から先はわからない状況でした。私はその後も昭和60年に群馬県教育委員会の映画撮影指導で外田代に入りましたが、映像を撮って戻るのがやつの状況で、外田代の先は調査の空白地帯となっていました。

話が前後しますが、戦前の陸地測量部の五万分の一地形図「藤原」を見ると、猫又川源流部は周囲からの予測で作図されていて、カッパ山が無く景鶴山から南西にのびる尾根になっているなど、無雪期にこの地域に入ることの困難さがうかがえます。私たちが調査に用いた国土地理院の地形図も流路や湿原の位置がずれていて、位置確認には高度計と空中写真が不可欠でした。また、最初の外田代調査の後に、食生態学者で探検家の西丸震哉氏のエッセイで、西丸氏が戦後この地域に探検目的で入り、岩頭盆地や瞳ヶ原などの命名をしたことを知りました。

猫又川源流の核心部に入ったのは、平成6年から8年にかけての3回の調査です。過去の経験から日帰りでは外田代以遠の調査が不可能なことや、現地の状況がわからないことから、奥利根地域などの学術調査で隊長を務めている地質学者の小林二三雄先生と共同で調査を進めることにし、小林先生のとつてで山岳会にサポー



▲ 瞳ヶ原 (昭和 53 年)

トをお願いしました。小林先生は、戦後の早い時期にほとんど単独で尾瀬地域の地質調査を行っており、景鶴山麓で二畳紀の紡錘虫化石を発見するなどしています。

それぞれの調査が8月上旬3泊4日の幕営で、日数に制限があったため、植物関係の主な調査対象を湿原植生と植物相に限定しました。また、沢沿いのルートを辿るため、地下足袋にヘルメットやザイルを持つなど沢登りの調査のスタイルになりました。

調査は、平成6年が猫又川右俣↓瞳ヶ原↓左俣ワル沢上部↓ススケ峰↓大白沢山↓猫又川右俣、平成7年が猫又川右俣↓岩頭ヶ原↓カッパ山北の湿原群(カッパ山を含む)↓滝ノ沢↓泉

水池、平成8年が背中アブリ沢↓外田代↓カッパ山↓岩頭ヶ原↓猫又川右俣の経路で行われ、成果は群馬県が発行している「尾瀬の自然保護」や「良好な自然環境を有する地域学術調査報告書」にまとめられています。

この調査のなかで最も印象に残っているのが平成6年の調査です。私たちは荷が重いもの(共同装備の多くはサポートや小林先生が持ってくれたのですが)慣れた様子で沢を登り、充分時間をかけて瞳ヶ原などを調査して(湿原脇のササ藪の幕営地ではツキノワグマの気配が一晚中消えませんでした)、2日目にススケ峰に着きました。3日目のススケ峰の調査は、次の目的地の大白沢山が直線距離で1.5km(稜線を辿って2.5km)ほどなので、チシマザサの藪こぎはあるものの、15年前に白沢山方面への分岐の尾根まで通ったことのある私はそれほど時間がかかるとは思わず、調査を終えて大白沢山に向かったのは昼近くになっていました。15年前にあつた微かな踏み跡はほとんど無くなっていました。藪こぎに慣れている私たちはススケ峰を下った鞍部まで順調に進みました。しかし、登りになると藪に加え徐々に荷の重さがつらくなり、誰が言うとはなしに白沢山方面への分岐のピーク下を巻くようなルートをとってしまいました。これが大きな間違いで、チシマザサの藪は高さ3mを超えるうえに密度が高く、全身の力をかけて押しても簡単に通り抜けることができません。僅か100m進むのに1時間かかるなどの苦勞を強いられ、大白沢山直下の鞍部に出る頃には薄暗くなっています

た。ここで困ったのが水と幕営地でした。飲み水は尽き、空中写真では幕営予定の大白沢山に水場の池が確認できていないため(翌日小さな池塘を一つ見つけました)、大白沢池に下ることも考えましたが、たまたま鞍部に小さな池を見つけました。早速水を汲もうと思ったのですが、表面まで底の堆積物が浮き上がり、少し触れただけでボコボコとガスが出るうえに腐植が多く水は褐色に濁っていました。無いよりずっとましなので、厚手のビニール袋に10リットル以上汲むことができました。汲んだ水は最年長の小林先生が自分で持つといて大きなザックにさらに括りつけ、崖脇の急斜面を這い上がって山頂部の幕営が可能などころに出たときには



▲ 大白沢山湿原 (平成 6 年)



▲ 大白沢山から平ヶ岳を望む（平成6年）

暗くなっていました。私たちは普段から道の無いところの調査をしているので、藪こぎは日常茶飯事ですがこんな藪こぎはその後も経験していませんし、これほど褐色の水を飲んだこともありません。最終日は猫又川右俣を下りましたが、柳平の手前では先行している小林先生と私のすぐ脇にツキノワグマが水飛沫をあげて飛び出すなど、最後まで変化に富んでいました。

平成7年の調査では、雨による増水のために岩頭ヶ原手前で足止めされ、下降した滝ノ沢には雪渓が残り、大滝はザイルなしには下降できませんでした。平成8年の調査では、外田代を流れる小さな沢沿いで泥炭層が4mほどの高さで浸食された大きな凹地を見つけましたが、こ

の凹地は昭和60年には無く、氾濫によって表土が破壊されると泥炭層の崩壊が急激に進むことを示すものでした。小さな火山のカッパ山（前年は隊を分けた限定的な調査）は、南面の広い尾根上に生える高木の下をできるだけだけ辿って藪こぎをすることで、荷を背負ったままでも容易に頂上に着くことができました。

この一連の調査は探検的な要素があり、経験豊富な小林先生のリーダーシップと山岳会のサポート無しには調査自体が不可能なものでした。外田代以遠の調査はその後なされていません。猫又川源流部にはごく一部を除いて手つかずの自然が維持され、尾瀬においても秘境といえるところです。私たちの調査も植生に負荷を



▲ 外田代の泥炭層浸食（平成8年）



▲ カッパ山山頂（平成8年）

掛けないように細心の注意を払いましたが、尾瀬ヶ原よりも厳しい環境にあり、一度破壊されるとその復元が困難なところのため、積雪期も含めた立ち入り禁止が望まれる地域です。

◆◆ 筆者紹介 ◆◆

片野 光一（かたの こういち）

・群馬県自然環境調査研究会副会長

・専門は植物生態学

・著書は「景鶴山学術調査報告書（共著）、

至仏山・笠ヶ岳西面学術調査報告書（共著）、

群馬県植物誌改訂版（共著）」など



▲ 尾瀬沼キャンプ場で悠々と食事をするニホンジカ

ありがとうございます。尾瀬鹿プロジェクトの活動は、尾瀬を愛する皆様のご支援や応援に支えられています。昨年、クラウドファンディングでご支援いただいた約100万円の活動資金で、多くの廃棄されるシカやイノシシの皮は素晴らしい革へと加工されています。少しずついろいろな場所で販売していただいたり、多くの方の手にとっていただき、尾瀬だけでなく今の日本での人と野生動物の現状や問題、関係性の変化、そして今なお続く放射能の問題等を考える機会にもなっていると思います。けれど自分のやっていることは本当に正しいのか、何をすべきなのか、いつも自問自答しています。

尾瀬でつながる

一昨年、私は尾瀬沼にある長蔵小屋の無料休憩所の一角をお借りして鹿革製品の販売を行いました。昨年は、山小屋オリジナルの焼印を押した鹿革の山バツジを6軒の山小屋さんと道の駅番屋（帝釈・田代山）で販売していただきました。鹿革製品の販売だけでなく、尾瀬で宿泊される方が



楽しめるようなことがないかと考えていた時、福島県の奥会津・金山（かねやま）町に暮らすマタギさんの事を描いた『春よこい』というドキュメンタリー映画を知りました。東日本大震災以降、野生動物や農作物、そしてヒメマスなどへの放射能汚染を目的にしたりにしながら、変化する環境に対峙するマタギの猪俣昭夫さん。この映画を尾瀬に来る多く



の方に観ていただきたいと安孫子監督やプロデューサーのナオミさん、尾瀬沼ビジターセンターの方と何度も打ち合わせを行い、ビジターセンターでの上映だけでなく、見晴休憩所では初めての夏休み期間中約一ヶ月のロングラン上映をしていただきました。

また、野生動物のありのままの姿を撮影し続ける二神慎之介さんの写真展も開催していただきました。こちらも車で入れない尾瀬沼へビジターセンターの皆さんが何度も歩荷して飾り付け。尾瀬では出会うことの少ない野生動物たちの表情やしぐさを感じていただけただけではないでしょうか。

そして、夏休み、紅葉シーズンに週末イベントとしての鹿革ワークショップ。100名以上の方に参加していただきました。鹿革は柔らかいのにとても強く、紙のように切ったり貼ったり縫ったりと誰でも楽しめる素材です。小さなお子さんから大人の方まで思い思いに作って使ってくださいます。これは大人気で、わからないことだけお手伝いすれば、アイデア次第で本当に素敵な「世界



▲ 女性3人組はお揃いのプレスレット



▲ 尾瀬で出会った鳥ができたよ！

にひとつ》ができ、製品にできない端切れも無駄なく使ってあげられます。

地域とつながる

尾瀬のシーズンが終わってからは地元の方々や友人たちとワークショップを続けています。私は尾瀬で働きはじめてから今まで生活のほとんどが尾瀬でしたから、地域との関わりはあまりありませんでした。冬も近所の方と時々話すことはあっても家で手仕事をしたり、遠方にでかけたりでした。けれど、この活動を始めて一番大切なのは地域の方とのつながりでした。

一番は猟師さん。今まで捨てていた皮をきれいに



▲ 皮から革へ生まれ変わる

に剥いていただけるようにお願いしてきました。猟期であれば、肉を食べるため必ず皮を剥ぎますし、寒いのですぐに腐敗することもありませんが、夏は大変でした。駆除され廃棄される命をできる限り活かしたいという想いから始めた活動ですが、駆除目的のわな猟のため穴や傷が多かったり、塩漬けしても鞣しに送る前に腐敗してしまったり…。家の横で皮を干しているとカラスと八工が寄ってきて悪戦苦闘でした（笑）。それでも活動を知ってくださったり製品を見てくださった猟師さんたちから多くの皮をいただけるようになりまし。本当にありがとうございました。

そして2月、初めて



▲ 檜枝岐村革講習会

て檜枝岐村で鹿革講習会を開催していただきました。皮は猟師さんが村内で獲ったものを鞣し、作るのも村の方々。猟師さんの奥さんや息子さんも参加してくださり、15名の皆さんと2日間基本の名刺入れを作り、その後はバッグやスマホケース、小物入れ等好きなものを仕上げました。本当の地産地消、地元の資源を地元の方が使い、尾瀬の新しい製品を作っていただければ無駄のない資源の循環ができます。

ものづくりにつながる

今までの活動と並行し、より地域の特性を活かした質の高いものを作れるようになりたいと考えるようになり、昨年会津若松で行われていた「も

のづくり塾」に参加させていただきました。会津は伝統工芸が盛んな地域で、会津塗をはじめ編み組み細工、桐細工、会津木綿やからむし織等、昔から伝わってきた素晴らしい技術が数多くあります。作り手の皆さんと話す中でたくさんアイデアをいただくこともできます。嬉しかったのが「今まで革という素材を考えたことはなかったけれど、新しい会津の素材として使えますね」と言っていただけでいいです。若い作り手さんたちが自らマーケットを開いたり、セレクトショップを経営していたりして、伝統を伝えながらも新しいものづくりに積極的に携わっている姿はとても勇気をいただきました。今はいろいろな作り手さんたちと新しいものづくりを始めています。今夏、燧ヶ岳・会津駒ヶ岳の山開きに合わせ、檜枝岐村のキャンプ場をお借りして手作りマーケットを開催する予定です。尾瀬内でもできると楽しいだろうなあ…。今年は、2メートル近い雪に覆われた南会津。尾瀬もきつと深い雪の中で動物も植物もゆっくと春を待っていることだと思えます。大変だけど雪国の冬は雪が積もって毎日毎日雪かきをして、繰り返す中で少しずつ春を感じる。ことがとても大切だと、昨年実感しました。まだまだ深雪の中をよつこいしょと一歩、休んでまた一歩としかすすめないようなこの活動ですが、いろいろな場所でも多くの方と出会っていいことつながり広がっていくと信じています。尾瀬から地域へ、そしてまたそのつながりを尾瀬へ。そんな活動の広がりを目指します。そのためには心身とも健康なおかなければ！これからもどうぞよろしくお願いたします。

尾瀬鹿プロジェクト改め

おぜしかプロジェクト 小山抄子

原をわたる風だより

山の鼻ビジターセンターより

番外編 第1回冬季調査

尾瀬保護財団では、尾瀬山の鼻ビジターセンターの管理を群馬県から受託しており、尾瀬のシーズンが終了すると、私たちはビジターセンターに冬の装いを施し下山します。そして尾瀬は約半年の間閉鎖されるのですが、ここは大変雪深い場所ですので、冬の半年の間に二回ほど特別な許可を得て入山し、建物や橋梁などの様子を見に来ます。今年度の一回目は11月24日、25日に実施しましたので、その時の様子をお伝えします。



その日は、前日から降り続いた雪が積もり、計画通り実施するか、延期するか微妙な天候でしたが、鳩待峠に到着すると雲間から太陽の光が差し込み、早く行けと言われていた感じがしたので、計画通り出発しました。尾瀬ヶ原の積雪は標高差のせ

いか、鳩待峠より少なめでしたが、木道に積もった新雪の上を歩行するのは十分な注意が必要です。夕方には、雲間から靑空がのぞき、若干の夕焼けも見ることができました。

今回は、ビジターセンター建物周辺を中心に調査のみの作業で、1泊2日で行いましたが、次回の調



査は建物の除雪を含めた4泊5日での作業を予定しています。

昨年度は極度の少雪の影響で、除雪の作業量は少なかったのですが、今年は、現時点では例年並みの積雪となっているようです。

第2回冬季調査が無事終了しましたらご報告いたします。



▲写真：尾瀬沼山荘
今年1月10日の尾瀬沼の様子
東京パワーテクノロジー（株）
尾瀬林業事業所提供

尾瀬ボランティア情報

このコーナーでは尾瀬ボランティアの活動の様子を紹介いたします。

○尾瀬ボランティア総会を開催しました

1月21日（土）埼玉県川口市（会場：埼玉県産業技術総合センター）にて、尾瀬ボランティア総会を開催しました。次のとおり、今シーズンの振り返りと来シーズンに向けた意見交換などを行いました。

（一）講演

演題：野生動物（クマやシカ）の生態について

全国各地で深刻な問題となっているニホンジカによる食害や平成28年5月に秋田で発生したツキノワグマによる人身事故など、近年、野生動物による被害が後を絶ちません。



▲片平さんの講演の様子

尾瀬においても例外ではなく、ニホンジカによるニッコウキスゲなどの貴重な植物の食害や、昨年ツキノワグマが山ノ鼻で頻繁に出没するなどの問題が起きている。

そこで今回は、群馬県林業試験場で野

生鳥獣について研究されている片平篤行さんを講師にお招きしました。写真や動画を交え、ニホンジカとツキノワグマの生態（生息数、繁殖、食性など）のほか、ツキノワグマとの遭遇を避ける方法、遭遇した際の対処方法などを講演いただきました。

（二）平成28年度「活動報告」

まずはじめに、事務局から今年度の活動状況を説明。昨年度より新規登録者数や延べ活動者数が増えた一方、実活動者数が伸び悩んだ結果などを報告しました。次に、実際に活動したボランティアさんからの報告。今回は、野口義夫さんにお話ボランティア（※1）について、活動方法や様子、魅力、エピソード、気をつけていること、使用している小道具などを報告していただきました。会話のきつかけづくりや会話を広げるコツなど、とても参考になりました。

（※1）ベンチや休憩場所など、定点で自然や歴史などを解説するボランティア活動。実施場所は尾瀬沿地区。

（三）平成29年度「活動計画」(案)

尾瀬ボランティアの活動の基本である入山口啓発活動を中心に、その他活動について実施時期等の確認を行いました。また、来年度新たな活動として、**栈木打ち（※2）**や外来植物除去作業などを検討していることについてお知らせしました。

（※2）木道の滑りやすい箇所**に栈木を打つこと**で、転倒事故を防止します。

（四）班別討議

一班5〜6名に分かれ、尾瀬の好きなところや尾瀬ボランティアでこれまでどんな活動をしてきたか、これからどんな活動をしたいかなどを情報交換しました。その後、「尾瀬ボランティア活動を楽し



▲ 班別討議の様子

むためには」をテーマに話し合い。楽しみながら活動を続けることで、活動の活性化に繋がるのでは、との思いでテーマを選定しました。



▲ 集合写真

○ 尾瀬ボランティアを募集しています

財団では、尾瀬の貴重な自然を国民の宝として大切に保護し、将来へと引き継いでいくために、尾瀬地区の利用者に対する普及啓発活動、環境美化活動、施設の管理運営が重要な役割を果たすという考えに賛同する人を「尾瀬ボランティア」として募集しています。

（一）受付期間

随時受け付けています。

（二）応募にあたっての御注意

～研修・登録が必要です～

活動を始める前に、尾瀬ボランティアへの登録を行います。登録のためには、所定の研修を修了する必要があります。研修は通常4月から開始する通信研修と6月〜7月頃に行う現地研修を受講していただきます。平成29年度の登録を希望する場合は、研修スケジュールの都合上、所定の応募用紙を平成29年3月31日（金）までにご提出ください。

【問い合わせ先】

公益財団法人尾瀬保護財団（担当：佐藤）

◎ TEL:027-220-4431

◎ FAX:027-220-4421

トピックス TOPICS

○ 第21回NHK「わたしの尾瀬」写真展

（高崎展・前橋展）を開催しました

（今後、東京・埼玉・新潟・福島を巡回予定）

平成28年12月に高崎シティギャラリー、29年1月に群馬県庁において、「わたしの尾瀬」写真展の高

崎展・前橋展がそれぞれ開催されました。

21回目となる「わたしの尾瀬」フォトコンテストには全国から786点の応募があり、会場にはその中から選ばれた50点の力作が展示されたほか、財団の活動を紹介するパネルや片品村俳句大会の入選作品、檜枝岐村の尾瀬書道展の入選作品も展示され、大勢の方が来場されました。

尾瀬には何度も通っているという方も、まだ一度も行ったことのないという方も、尾瀬の四季折々の表情を堪能していただけたのではないのでしょうか。

12月9日（金）には高崎会場にて表彰式・交流会が行われ、入選者の方々が多数参加されました。同日、審査員である新井幸人さんと今井隆一さんによる作品解説も行われ、入選者は次のコンテストに向けて熱心に聞き入っている様子でした。また、今年度尾瀬沿ビクターセンター駐在職員による尾瀬レポートも開催され、今シーズンを振り返りました。



▲ 表彰式の様子

今後の写真展の巡回予定については、日程および会場が決定次第、当財団ホームページ並びにNHK前橋放送局ホームページにてご案内します。



▲ 高崎展



▼ 前橋展

【問い合わせ先】

NHK「わたしの尾瀬」実行委員会

（担当：西澤・佐藤）

◎ TEL:027-220-4431

◎ FAX:027-220-4421

○尾瀬に関する情報交換会を開催しました

平成29年2月17日（金）午後6時から東京都中央区銀座にある、コートヤードマリオット銀座東武ホテルで、「尾瀬に関する情報交換会」を開催しました。今年度は、尾瀬国立公園が誕生してから10年目を迎える節目の年です。この「尾瀬に関する情報交換会」を契機にして、多くの人に尾瀬の魅力を知っていただくため、尾瀬国立公園に隣接する自治体や関係機関が一堂に会して、旅行者、旅行雑誌出版社、アウトドア用品販売店を招待し、改めて尾瀬の保護と適正な利用を呼びかけました。多くの関係団体が1箇所に集まりPRする初めての試みで、招待者と主催者を合わせて約150人が参加しました。

情報交換会では、主催者側各団体の代表者が尾瀬と地元の魅力を紹介し、その後、歓談の時間を設け、招待者と情報交換を行いました。

また、会場には、主催者側各団体のブースを設置して、映像を流したり、パンフレットを設置したりして、尾瀬や地元の魅力を発信しました。

2時間ほどの会でしたが、参加していただいた招待者から尾瀬の魅力が発信され、より多くの人に尾瀬のことを知っていただき、環境保全につなげて行ければと思います。



寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬国立公園において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を行ない、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与する活動を続けております。



◆個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。(財団への寄付を行った翌年1月1日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。)

福島県、群馬県にお住まいの寄付者：個人県民税

福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方：個人県民税と個人市民税・町民税

◆また、尾瀬保護財団は「公益財団法人」に認定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。

※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りします。

◆企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、特別協賛寄付、協賛寄付の制度があります。詳細は財団事務局（群馬県庁15階・027-220-4431）にお問い合わせください。

■寄付につきましては、財団事務局にご来訪いただくか、財団にご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

特別協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

Asahi

アサヒビール株式会社

2016年9月30日寄付

アサヒビール(株)群馬支社 これまで継続してご支援をいただいていた「うまい！を明日へ！」プロジェクトによるご寄付は平成26年度で終了となりましたが、今後も当財団への支援を続けていきたいというアサヒビール群馬支社様のご厚意により、平成27年度の100万円に引き続き、特別協賛寄付として平成28年度も90万円のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 29,957,751円)

寄付者からのメッセージ：アサヒビール(株)群馬支社では、地域との共生や地域貢献を目標に掲げ、2009年春から、全国活動の一環として群馬県内での売上の一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただいてまいりました。今後は群馬支社独自の取り組みとしての寄付継続を含め、県民の皆様とともに環境保全を進めていきたいと考えています。群馬県の子供たちの未来のために、お役に立てただけなら幸いです。

① 顧客と時代のニーズを追い求めて...

糸井商事(株)

2016年9月30日寄付

糸井商事株式会社 当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同いただき、100万円のご寄付をいただきました。今後もご支援をいただく予定です。(通算寄付総額 1,000,000円)

寄付者からのメッセージ：糸井商事は昭和21年創業、今年で70周年を迎えました。「顧客と時代のニーズを追い求め続けます。」と「会社の繁栄、社員の幸福、地域社会への貢献を三位一体で推し進めます。」を経営理念に掲げ、地域にとって存在価値のあり続ける企業を目指しています。社長が球団代表を兼ねている群馬ダイヤモンドペガサスの活動と合わせながら、尾瀬の自然環境保護の応援をさせていただきます。

エコ計画

2016年8月31日寄付

株式会社エコ計画 環境・食・貢献をテーマに事業を展開している企業として、「豊かで美しい尾瀬の自然を後世にまで伝える」という当財団の趣旨に賛同いただき、社会貢献事業の一環として100万円のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 1,000,000円)

寄付者からのメッセージ：エコ計画は、1970年創業の総合リサイクル企業で「環境・食・貢献」をテーマに事業を展開。群馬県では、1981年に事業を開始し、古民家を移築した自家源泉を備える2つの直営旅館に加え、高崎市倉渕町には、フォレストストック認定取得の社有林(約1,000ha)を保有、森林整備を通し、自然環境保護に取り組んでいます。尾瀬は、日本の自然保護の原点でもあり、貴財団の趣旨に賛同、寄付をさせていただきました。今後も地域社会との共生、発展に貢献して参ります。

ウォーム・マネー

WARM MONEY

福島銀行

2016年6月16日寄付

株式会社福島銀行 平成24年11月に発売された「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」の平成28年3月末現在残高の0.01%に相当する、1,048万円余のご寄付をいただきました。(通算寄付総額 37,265,336円) また、昨年度に引き続き街頭募金活動を実施いただき、8万円余りをご寄付いただきました。(募金総額 239,986円)

寄付者からのメッセージ：福島銀行は、中期経営計画「ふくぎん本気(マジ)宣言」の基本方針の中で、社会貢献の取組強化を掲げております。「ふくぎんエコ定期『みんなの尾瀬』」では、お預け入れ頂いた同預金の年度末残高の0.01%相当額を尾瀬保護財団へ寄付させて頂いており、趣旨にご賛同頂いた多数のお客様より永年ご支持を頂いております。かけがえのない尾瀬の自然を守るため、福島銀行はお客様と共に、これからも積極的に保護活動に取り組んで参ります。

共和工業株式会社

代表取締役 松井恒雄

2016年4月7日寄付

共和工業株式会社 当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の保全に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、今回で8回目となります。(通算寄付総額 1,400,000円) 寄付者からのメッセージ：共和は太陽光発電事業など自然保護を支援してまいります。

明日をもっとおいしく

meiji

2016年3月31日寄付

SAVE ON

2015年11月24日寄付



Minakami Kogen
Hotel 200

2015年9月8日寄付

株式会社 明治 (株)明治様の群馬工場で使用される水の水源でもある、尾瀬の自然環境を後世まで守り、次代に繋げていくことで、社会そして子どもたちの未来に役立てていただきたいとの想いで、30万円のご寄付をいただきました。今回は3年にわたるご支援の3年目となります。(通算寄付総額 900,000円)
寄付者からのメッセージ：(株)明治は、自らの事業が豊かな自然の恵みの上に成り立っていることを認識し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。その一環として、尾瀬の貴重な自然環境が守られるための保全活動の一助になる事を期待し、寄付させていただきました。今回の寄付金が有効に活用され、尾瀬の美しい自然環境が未来へ引き継がれていく事を願い、支援を継続してまいります。

株式会社セーブオン 平成27年5月19日～6月30日および9月1日～13日の間、群馬、新潟、福島県内のセーブオン全店舗において、尾瀬環境保全募金を実施していただき、その募金額をご寄付いただきました。(通算寄付総額 6,751,550円)
寄付者からのメッセージ：(株)セーブオンでは、「尾瀬国立公園」が位置する群馬県・新潟県・福島県の店頭にて募金を実施し、多くのお客様に寄付をお寄せいただきました。ご協力頂いたすべてのお客様に深く感謝いたします。今後も、尾瀬の貴重な自然環境を後世まで末永く守り続けるための活動を応援してまいります。

水上高原ホテル200 (水上高原リゾート株式会社) 水上より坤六峠を越えて尾瀬に入るツアーを同社が経営されているホテル(水上高原ホテル200)で実施されており、その収益の一部として30万円のご寄付をいただきました。同社からのご寄付は、今回で4回目となります。(通算寄付総額 1,140,000円)
寄付者からのメッセージ：環境保全と共に尾瀬の雄大な自然と楽しさ・魅力を伝えて参ります。

尾瀬紀行

尾瀬紀行(信託ファンド)で收受した信託報酬の一部として総額453万円余りをご寄付いただきました。平成19年より今回が10回目のご寄付となります。(通算寄付総額 60,376,853円)



Daishi Securities

2016年8月3日寄付

第四証券株式会社 今年度は5万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 1,726,384円)
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



ダイヤモンド

2016年8月1日寄付

※DIAMアセットマネジメント様は2016.10.1アセットマネジメントOne株式会社に商号を変更されました

DIAMアセットマネジメント株式会社 今年度は226万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 30,188,427円)

寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。



第四銀行

2016年8月1日寄付

株式会社第四銀行 今年度は30万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 6,199,866円)
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。



すべてを地域のために
東邦銀行

2016年6月2日寄付

株式会社東邦銀行 今年度は74万円余りをご寄付いただきました。(通算寄付総額 10,551,422円)
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けることを目的として、当ファンドの販売・運用を通じて地域社会の発展に貢献するとともに、広く尾瀬の自然を愛する皆様と共に力を尽くしていく所存であります。今後とも積極的にCSR(企業の社会的責任)を重視して取り組んで参ります。



群馬銀行

2016年6月21日寄付

株式会社群馬銀行 今年度は116万円余りをご寄付いただきました。(財団設立当初からの寄付を含め、通算寄付総額 29,963,154円)
寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させていただきました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。

協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

糸井商事株式会社
2016年9月30日寄付

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同いただき、10万円のご寄付をいただきました。今後ともご支援をいたたく予定です。(通算寄付総額 100,000円)

株式会社ニチネン
2016年7月29日寄付

株式会社ニチネン様が片品村の尾瀬工場(平成19年4月に設立)で生産し、販売するミネラルウォーター「尾瀬の湧き水」の収益の一部を、尾瀬の自然環境保全のために役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成19年度から毎年ご寄付をいただき、今回で10回目となります。(通算寄付総額 1,000,000円)

株式会社読売旅行
2016年4月28日寄付

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、10万円のご寄付をいただきました。今回が3年わたるご支援の3年目となります。平成29年度からの3年間についても引き続きご支援をいたたく予定です。(通算寄付総額 300,000円)

株式会社フレッセイ
2016年4月28日寄付

フレッセイとキリンビバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売されたキリンビバレッジの対象商品の売り上げ1本につき0.5円(両社で0.25円ずつ負担)をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、28万円余りをご寄付いただきました(平成25年9月～平成26年8月分の積立金)。エコ基金からのご支援は6回にわたり、今回が最終回となりました。(通算寄付総額 2,234,276円)

キリンビバレッジ株式会社
2016年4月28日寄付

フレッセイとキリンビバレッジでエコ基金を創設し、フレッセイの各店舗で販売されたキリンビバレッジの対象商品の売り上げ1本につき0.5円(両社で0.25円ずつ負担)をエコ基金に積み立て、その積立金を尾瀬の自然環境保護のため、28万円余りをご寄付いただきました(平成25年9月～平成26年8月分の積立金)。エコ基金からのご支援は6回にわたり、今回が最終回となりました。(通算寄付総額 2,027,539円)

**一般財団法人
群馬県警察厚生会**
2016年4月11日寄付

当財団の設立の趣旨と活動内容に賛同していただき、尾瀬の美しい自然が後世の人々に引き継がれるよう活動に役立てて欲しいと、ご寄付をいただきました。平成23年度から毎年ご寄付をいただき、今回で6回目となります。(通算寄付総額 600,000円)

株式会社とりせん
2016年2月15日寄付

当財団の自然保護活動に活用してもらいたいとの趣旨で、10万円のご寄付をいただきました(3年にわたるご寄付の3年目)。株式会社とりせん様からは、平成21年に株式会社とりせん創立60周年を記念して、環境保全に寄与するという目的で社員の皆様が募金活動を実施し、その収益をご寄付いただいております。同社からのご寄付は通算で4回目となりました。今後ともご支援をいたたく予定です。(通算寄付総額 1,358,391円)

尾瀬の三二観察 ②9

ズミ (別名 コリンゴ)

6月に林縁を真っ白な5弁の花で彩るズミ、分類上はリンゴと同じ仲間だという。この花は甘く香っているので、登山者に楽しんでいただける。

花には体長13mmのヒメハナバチの一種と、より小さいズマルコハナバチとが頻りに訪れ、雄しべや雌しべを抱え込むようにして花粉を集めていた。

山の鼻田代で見かけるハチは、マルハナバチ類が最も多いのだが、ズミの花を訪れた昆虫の80%はこの2種の黒くて目立たないハナバチであった。

(フラワーエコロジスト 田中 肇)



イベント情報 ◆◆◆

第21回NHK「わたしの尾瀬」写真展

●渋谷展

【開催期間】

平成29年4月11日(火)～23日(日)
午前10時～午後6時
※23日(日)は午後4時30分まで

【会場】

NHKみんなの広場
ふれあいホール 3Fギャラリー
(東京都渋谷区神南町2-2-1)
(TEL: 03-3485-8034)

●川口展

【開催期間】

平成29年4月25日(火)～5月7日(日)
午前9時30分～午後5時30分

【会場】

SKIPシティ
公開ライブラリーエントランス
(埼玉県川口市上青木3-12-63 NHK川口アーカイブス)
(TEL: 048-268-8790)

※予定は変更になる場合があります

『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援して下さる方々の集まりです。

※加入・更新時期は年4回 (5月・8月・11月・2月) です

5月1日からの加入・更新をご希望の方は
3月31日までに会費の納入をお願いします。

【年会費】

個人	個人会員	1口	2,000円
	家族会員 (個人会員と同居の家族)	1口	1,500円
	ユース会員 (加入又は更新時に満22歳以下)	1口	1,500円
賛助	賛助会員 (団体 企業等)	1口	10,000円

【特典について】

※友の会に加入された方には、以下の特典を提供させていただきます。

- ・友の会会員バッチ進呈、各種資料送付 (初回加入時のみ)
- ・財団機関誌：配付 (平成29年度は4回発行予定)
- ・宿泊割引：尾瀬戸倉、檜枝岐村周辺宿泊割引 (休日、祝祭日前等の除外日があります。)
- ・尾瀬周辺施設利用料割引：対象施設等の詳細は財団ホームページでご確認ください。

<https://www.oze-fnd.or.jp>

●●● 編集後記 ●●●

3月になり、いくぶん寒さが和らいできました。寒さが苦手な私にとって春の訪れはこの上ない喜びです。季節を感じることができるのは良いものですね。さて、今年の尾瀬の雪の状況は、例年と同じか少し多い？ようです。調査・除雪作業のために、当財団職員が3月に入山予定ですので、そこで状況がわかるかと思えます。春はもうすぐ。来シーズンもみなさまのお越しを心よりお待ちしております。(佐藤)



(公財)尾瀬保護財団
スマートフォンサイト
情報配信中

緊急情報
お知らせ
ライブ映像
など

尾瀬の質問も受け付けています

ツイッター
尾瀬情報配信中

